



羽沢だより

令和5年7月3日

おおさわ学園三鷹市立羽沢小学校

ホームページ <http://www.mitaka-schools.jp/hanesawa-es/>



短所で愛される

校長 高橋 奨

1学期も残すところあと1か月を切りました。先月は、梅雨の天候が心配されましたが、6年生が、2泊3日の自然教室を無事に終えることができました。

「感謝を忘れず、絆を深め、メリハリをつけて、安全に、自然教室を楽しもう！」をスローガンにして、一人ひとりが自分の役割を果たしながら、自覚を高くもって様々な活動に取り組む姿が随所に見られました。個性的な子が多く、自分の意見を主張して衝突する場面もよく見られる6年生ですが、それぞれの足りない所を責めるのではなく、互いに補い合う関係ができていくなど改めて感じ、気持ちが温かくなりました。

「人ってさ、長所で尊敬されて、短所で愛されるんだよ。だからどっちも大事なんだよ。」『癒し屋キリコの約束』（森沢 明夫著）の一節です。

学校教育の中では、「短所」の克服を目指すことが多いのですが、誰にでも短所はあって当たり前、その短所までを含めて、その人らしさと捉えることも大切だと改めて考えさせられます。

著者と親交の深い作家のひすいこたろう氏も、自身の講演の中で、格好悪い所(短所)を見せたのがきっかけで読者との距離が近くなった経験から、「欠点は、欠けている点ではなく、自分に欠かせない点、それがなくなったら自分じゃなくなっちゃう点と気付いた。」と語っています。長所と短所は紙一重、短所と思えることさえ、その人の魅力の一つになるかもしれません。

短所を否定されず、笑って愛してもらえるような関係性の中では、誰でもありのまま安心して過ごせます。大事な人に短所を愛してもらえるからこそ、自分でも自分自身を丸ごと受け止めることができます。そんな関係性の中にこそ、自己肯定感が育まれる土壌があるのかなと思います。

「短所を愛し、短所で愛される。」そんな関係ができていく6年生のこれからの活躍が大いに楽しみです。

「羽沢小学校 学校生活アンケートⅠ(令和5年度)」のお願い

日頃より、本校の教育活動に御理解、御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本校では、本校の教育活動をより充実させるために、昨年度、児童・教職員を対象に、標題のアンケートを年2回実施いたしました。

さらに、今年度は、保護者の皆様も対象に実施させていただきたいと考えております。アンケートの実施方法の詳細につきましては、後日、保護者連絡帳アプリにて、お知らせいたします。いただいた御回答は、集計の上、分析を行い、その結果を今後の教育活動に生かしていく予定です。

御多用とは存じますが、実施の趣旨を御理解いただき、アンケートに御協力いただきますよう、よろしくごお願い申し上げます。

6年生 「Let's Go 自然教室」 6月21日(水)～23日(金)【2泊3日】

担任 西野 那見
藤波 大樹

約1か月前から、宿舎で過ごす生活班、活動と一緒にする行動班のメンバーを決めたり、それぞれの役割を決めたりと準備をしてきました。「早く行きたい!」と楽しみに待つ一方で、家族以外と過ごすことが初めての児童は、宿舎で寝られるだろうか、朝起きられるだろうか、友達とけんかなく3日間過ごせるだろうか、など生活面の不安もありました。しかし、自然教室での1日1日が過ぎていく中で、友達と一緒に課題をやり遂げたことへの喜び、任された係をやり遂げることの責任感を経て、成長していく子供たちの姿を見ることができ、担任一同とても頼もしく感じた三日間でした。そんな子供たちが書いた事後の作文を紹介します。

「自然教室」

ぼくは、この自然教室で学んだことが三つあります。一つ目は「協力」です。冒険プログラムでは、チームが一つにまとまらないことがありました。けれど、みんなで「協力」をしてなんとか課題をクリアすることができました。もしできないことがあったとしても、できないで終わらせずに立ち向かう事を仲間と共にやることの大切さを学びました。

二つ目は「メリハリ」です。室内レクで友達と交流し楽しみますが、そのあと寝ないといけません。そこですぐに寝れないことがあります。そんな時に「メリハリ」が大切です。自然教室は自分一人だけではなくみんなできていることを考えながら行動していることを考えなければなりません。このことを普段の生活にも生かしていきたいと思いました。

三つ目は、「仲間の大切さ」です。自然教室の間で友達に助けられたことがたくさんありました。仲間と一緒に励まし合いながら行った冒険プログラムも一人では絶対にクリアできません。仲間と過ごしたこの三日間で改めて友達は絶対に手放したくない一生の宝物だと思いました。この経験を忘れず、普段の生活に生かし、中学校、いや、社会人になった時まで忘れずにしていきたいと思います。



「自然教室」

私は、自然教室で学んだことは二つあります。一つ目は「協力をする事」、二つ目は「楽しむこと」です。

一つ目の「協力すること」は、冒険プログラムで学びました。冒険プログラムでは、全部のゲームが協力しないとできないものでした。特に協力しないといけないのは「スパイダーウェブ」です。全クリした班がチャレンジすることができます。穴が八か所あって、上の段は二回まで、下の段は一回まで通れます。一時間くらい格闘してやっとクリアできました。最初は絶対無理と思っていても、最後の最後にクリアできたのは、協力あってこそだと思っています。

二つ目の「楽しむこと」は、二泊三日全部の場面で学びました。

一日目のほうとう作りや室内レク、二日目は冒険プログラム、三日目は滝沢牧場。一人でも楽しくない人がいたらみんな楽しめないと思いました。自分も、実際、冒険プログラムの時、むかついてマイナスな言葉を言ってしまいました。同じ班だった友達が「そんなこと言っても変わらないよ!」と言ってくれました。言ってくれなかったら、今でも私はマイナスな言葉を発してしまうだろうなと思いました。このことから、わたしはこの三日間で「協力」「楽しむこと」を学びました。



「田んぼの楽校」

第5学年担任 若林亜希子 唐澤 享輔

5年生は、6月10日（土）に、ほたるの里で田植え体験をしました。一列に並んで、苗の根元をぐいっと土の中へ。一つ一つ丁寧に植えました。はじめは泥の中に足を入れることに抵抗があった子どもたちも、やわらかい泥の感覚にも慣れ、「もっと植えたい」と、田植えを楽しんでいました。

5月の苗床の見学、6月の田植えに続き、9月には稲刈りと、ほたるの里で貴重な体験させていただきます。それらの体験と、総合的な学習の時間でのお米についての調べ学習、社会科の「米作りのさかんな地域」の学習と合わせて、お米についてもっと知って、お米の大切さを感じてほしい



です。



羽沢小ニュース

「授業参観・保護者会行われる」

コロナ禍で行われていなかった、学期末の「授業参観・保護者会」を行うことができました（明日は、1・2年生授業参観・保護者会が予定されています）。各学年とも、5時間目の授業参観後に、保護者会を行い、1学期を振り返ることができました。多くの保護者の方々に、お時間をつけていただき、ありがとうございました。

「水泳指導 順調に進む」

今年度の水泳指導は、これまでより早い日程で指導を開始いたしました。天候にも恵まれ、ほぼ予定通り行われています。このままの状況でいくと、7月いっぱいまで水泳指導を終了いたします。御承知おきください。

CS（コミュニティ・スクール）委員会コーナー

6月15日（木）に、羽沢小学校を会場に第3回のCS委員会が開催されました。各校からの現状報告と、三鷹市教育委員会教育政策推進室長より、「地域学校協働活動を推進する団体の設置について」の説明がありました。CS委員会での協議を中心に、CS委員会の部会やCS委員が中心となって、会計をもつ地域学校協働活動を推進する団体が、関係団体とネットワークを活かしながら、地域学校協働活動を進めていくとのことで、CS委員会と一体的に運営できる同様の組織づくりが進んでいます。



